



第58回「おかねの作文」コンクール

秀 作

投資としての寄付が切り開く未来

山形県・山形市立第五中学校 3年 紺野 碧生

私は将来、ロボットの研究者になり、人々の暮らしがより豊かで快適なものになるようにしたいと考えている。その夢の実現には実際の研究活動の経験が必要だと考え、山形大学のヤマガタシステム（STEM）アカデミーに参加し、様々な実習に取り組み、自分で設定したテーマで研究を行った。

そこで、研究には多くの機材や材料が必要であり、それにはかなりの費用がかかるということを知った。私が実際に研究を進めていく中で、顕微鏡を使って溶液中の酵母菌の数を計測することになったが、接眼レンズを覗いて計測を行うのは困難で、専用の機材が必要になった。しかし、その機材は高価なものであったため、実験方法や使用器具を変更せざるを得なくなり、悔しい思いをした。それによって、研究は自身の努力だけではなく資金にも左右されるのだと痛感した。

そこで、日本全体の研究環境について調べてみた。文部科学省のウェブサイトには、研究開発費の対GDP比は高い水準だが、大学や公的機関、企業の研究開発費は近年停滞していると示されていた¹⁾。また、研究者一人当たりの研究費では日本は世界9位²⁾で、革新的技術を多く生み出してきたアメリカなどの国々と比較すると大きな差があることが分かった。

研究費が少ないと機材や材料を購入できなくなり、実験回数が減少し、実験の質が下がる。そうなると結果が出ない。結果が出ないと次の研究費が獲得できない。そんな悪循環になりかねない。研究費の少なさは、研究継続を困難にする。

これにより、論文が書けない状況が続き、研究者の意欲が落ちてしまい、研究業界の活力も低下する。この結果、研究の道を志す若手が減ることで人材不足が発生し、研究継続はさらに難しくなる。

このような状況が続くと、日本の科学技術の発展が遅れ、産業も衰退し、博士人材や学生のキャリア形成にも影響を与えかねないと感じた。また、研究費

が少ないと企業や研究機関は採用に慎重になり、就職活動も厳しくなる。たとえ研究職に就いても、研究に必要な機材が買えず、思うように研究ができない。将来が不透明なために博士課程への進学をためらう学生も増え、研究の裾野が広がらない。このように、就職・研究環境・進学の三つすべてに影響すると考えた。

しかし、研究というものは社会を豊かにするためになくてはならないものだ。では、研究費不足が研究を止めているなら、それを少しでも良くする方法はないか。そう考えて調べていくと、京都大学iPS細胞研究所が寄付を募っていることが分かった。寄付のサイトには「研究を支える資金は期限付きのプロジェクトが大半であるため、安定的に研究資金と優秀な人材を確保し続けるには、国からの資金だけでは賄いきれない現状があります。この長い道のりを走り続けるための財源として、非常に重要な役割を果たしているのが、多くの方々からのご寄付で成り立っている『iPS細胞研究基金』です。」との記述があった³⁾。少しでもこの研究に貢献したいと思い、私は京都大学iPS細胞研究所に寄付をした。そのとき私は、iPS細胞技術が社会で役立っている未来を想像し、うれしさとワクワク感を覚えた。

一般に寄付は災害などで困っている人々を支援するための慈善活動というイメージしかなかった。しかし、研究への寄付は将来、研究力を高め、新技術の開発を促し、強い産業の創出と雇用の拡大をもたらす。そして、最終的に私たちの生活を豊かにする効果がある。このように、寄付に対する見返りはお金だけではない。つまり、研究の成果としてもたらされる新技術の発見や社会的利益という形で価値が返ってくるとも言える。その意味で、寄付は「未来への投資」と言えるのではないかと思った。

私は現在、少額の寄付による間接的な貢献しかできない。だからこそ今は勉強を継続して、中学・高校・大学で基礎と研究の力を磨き、将来はロボットの研究で社会に必要な革新的技術を確立したい。その成果で、私がiPS細胞研究所に寄付をしたときに抱いたワクワク感を多くの人に届け「この研究は投資になり得る。」と思ってもらえるようにしたい。そして、私は社会を技術で明るくする取り組みに、今度は当事者として直接関わる人材になりたい。

(注)

1) 文部科学省「令和4年版 科学技術・イノベーション白書」

URL https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa202201/1421221_00005.html

閲覧日 2025年7月26日

2) GLOBAL NOTE「研究開発費（研究者1人当たり）」

URL https://www.globalnote.jp/P-data-g/?dno=7322&post_no=10315

閲覧日 2025年7月26日

3) YAHOO! JAPANネット基金「難病やケガで苦しむ人々を救いたい。京都大学iPS細胞研究所に安定した研究環境を！」

URL <https://donation.yahoo.co.jp/detail/5113001>

閲覧日 2025年7月26日